

2023

令和5年6月27日

第20号

(通算66号)

IBARAKI Prefectural Junior College of Industrial Technology

IT短大VIEW!



1 就職合格,嬉しい報告!

本校で学ぶIT専門技術と、卒業生の活躍が注目されています。



左から 大里竜也さん、中村羽玖さん、小川颯斗さん

- 「株式会社ソフィア」大里竜也さん (下館工高卒)
- 「株式会社ユードム」中村羽玖さん (勝田工高卒)
- 「株式会社ブイテック」小川颯斗さん (日立商高卒)

3 記事トレ!

本校では、IT専門力に加え、社会人基礎力の向上のために、「記事トレ」を実施しています。新聞を読んで考える事で、読み解く力を育成します。

<記事> 日本経済新聞(2023年6月18日)
テック人材 女性、異業種からの転職増

◇要約

●吉田碧遥さん(土浦三高卒)
日本はIT技術者が132万人いて、世界4位である。日本のテック人材はこれまで男性が大半だが、リスクリングにより転職する女性が増えている。

女性テック人材が増えることで女性特有の課題解決が期待されている。

◇感想

●Diana Rizki Oktarinaさん(インドネシア教育大卒)

私これからのITに関するテック人材は男性だけでなく、女性のエンジニアが増えているのは良いことだと思う。様々な観点から豊かな生活が彩れる技術開発への期待が高まると思う。このことは日本だけでなく、他国も進んでいくと思う。

●藤枝紘生さん(水戸工高卒)

世界的にデジタル化が加速していくことで、テック人材の需要が高まっている。これからの日本を支えていくのはそういった人材になると思う。私たちはしっかり学んで、それを広げていく必要があると思う。

●鬼沢昇吾さん(水戸南高卒)

女性のテック人材が増えたことによって、「フェムテック」関連のサービスの多様化が期待されている。

自分も女性特有の心身の課題の他、テクノロジーによって老若男女が快適に生活できる技術開発に努力していきたい。

●吉田碧遥さん(土浦三高卒)

IT技術に興味のある子どもは少ないと感じます。IT技術者を増やすためには義務教育のうちからIT関連の授業を実施して、少しでも多くの子供たちに興味を持ってもらうことが大切だと思います。



Q1 これからのIT活用と抱負?

A1 大里さん「時代の流れに沿える技術者を目指したい」
中村さん「生活を支える技術者」小川さん「挑戦し続ける技術者」

Q2 あなたの趣味は?

A2 大里さん「今、夢中になっていることは映画を見ることです」
中村さん「野球観戦です」小川さん「バスケットに夢中です」

Q3 本校での学びと成果は?

A3 大里さん「本校で、自分の意見を発表したりすることが多く、自分の考えをしっかりと持つ習慣ができました」
中村さん「面接でも、基本情報処理技術者試験の取得をアピールすることができました」
小川さん「実践的なプログラミング言語(C,C#,Python等)を学ぶことができました」

2 いばらきP-TECH説明会



いばらきP-TECH説明会の様子

「いばらきP-TECH」の事業

- 01年次
6月「スタートアップ講演会」
1月「アイデアソン・地域課題」
3月「キャリアセッション」
- 02年次
7月「OneDayインターンシップ」
10~12月「課題研究事前説明」「企業見学」
3月「メンタリング(課題研究)」
- 03年次
6月「メンタリング(課題研究)」
8月「発表:コンテスト」
※ 本学入試にも反映

6月14日(水)、県立水戸工業高等学校において「いばらきP-TECH」説明会が開催されました。「いばらきP-TECH」とは、産学官が連携して本県の有為なIT人財を育成するための取り組みで、説明会には、県内の高等学校6校から、16人の先生方が集まりました。

倉橋主任指導主事(県教育庁高校教育課)からの挨拶に続き、本校担当者から、「いばらきP-TECH」の具体的な事業説明がありました。参加校からは、学校側のメリットやその実施方法などについて質問が出るなど、熱心な情報交換が行われました。

